

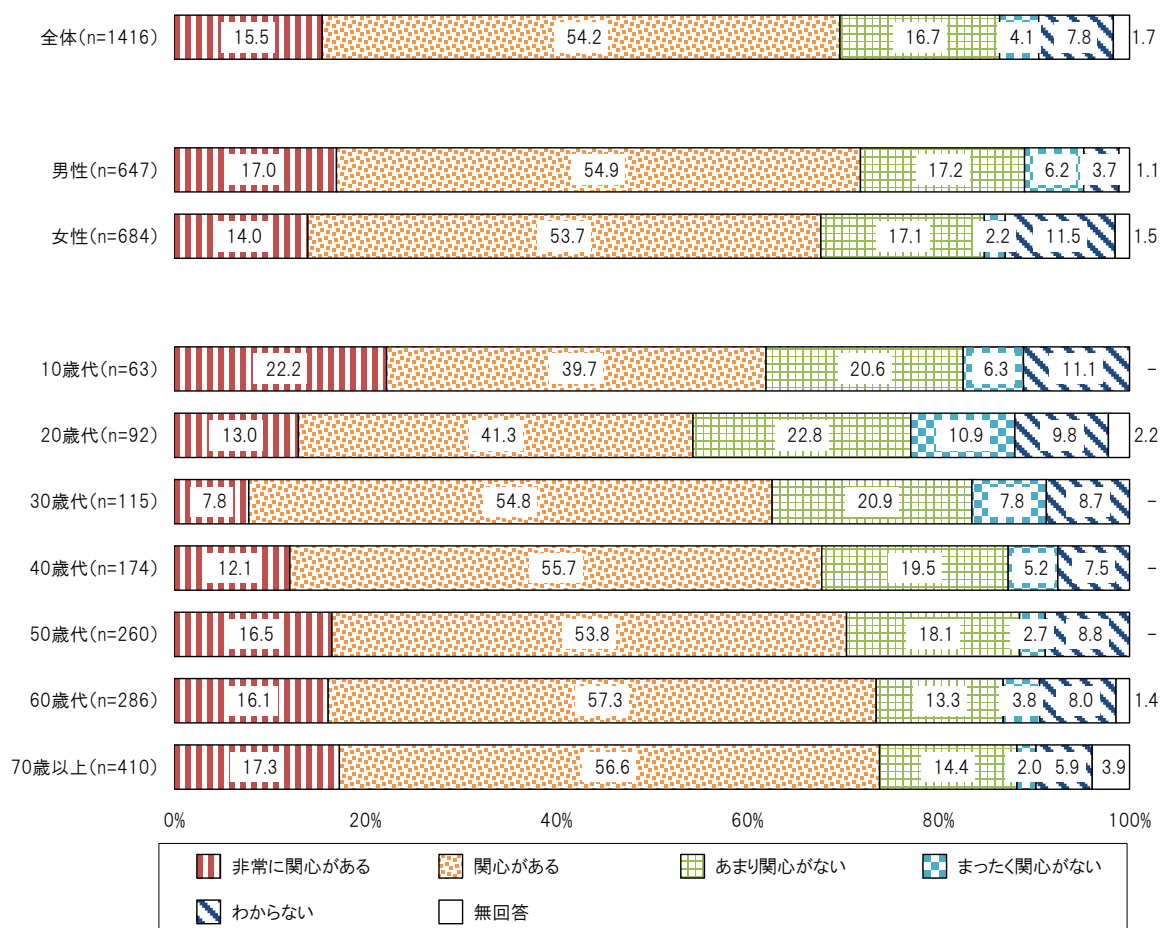
## ゼロカーボンシティの実現に向けて

問 25 あなたは、地球温暖化の防止や脱炭素社会の実現に関心がありますか。(〇は1つだけ)

全体では「関心がある」が54.2%で最も高く、ついで「非常に関心がある」が15.5%、「あまり関心がない」が16.7%となっている。

性別にみると、「非常に関心がある」と「関心がある」の合計の割合は、男性が71.9%、女性が67.7%であり、男性の方が4.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、「非常に関心がある」と「関心がある」の合計の割合は、70歳以上が最も高く73.9%であり、20歳代が最も低く54.3%となっている。同割合について、20歳代が5割台、10歳代、30歳代、40歳代が6割台、50歳代、60歳代、70歳以上が7割台となっている。



問 26 松阪市の「ゼロカーボン」や「カーボンニュートラル」などと呼ばれる脱炭素社会の実現をめざした取組について、知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

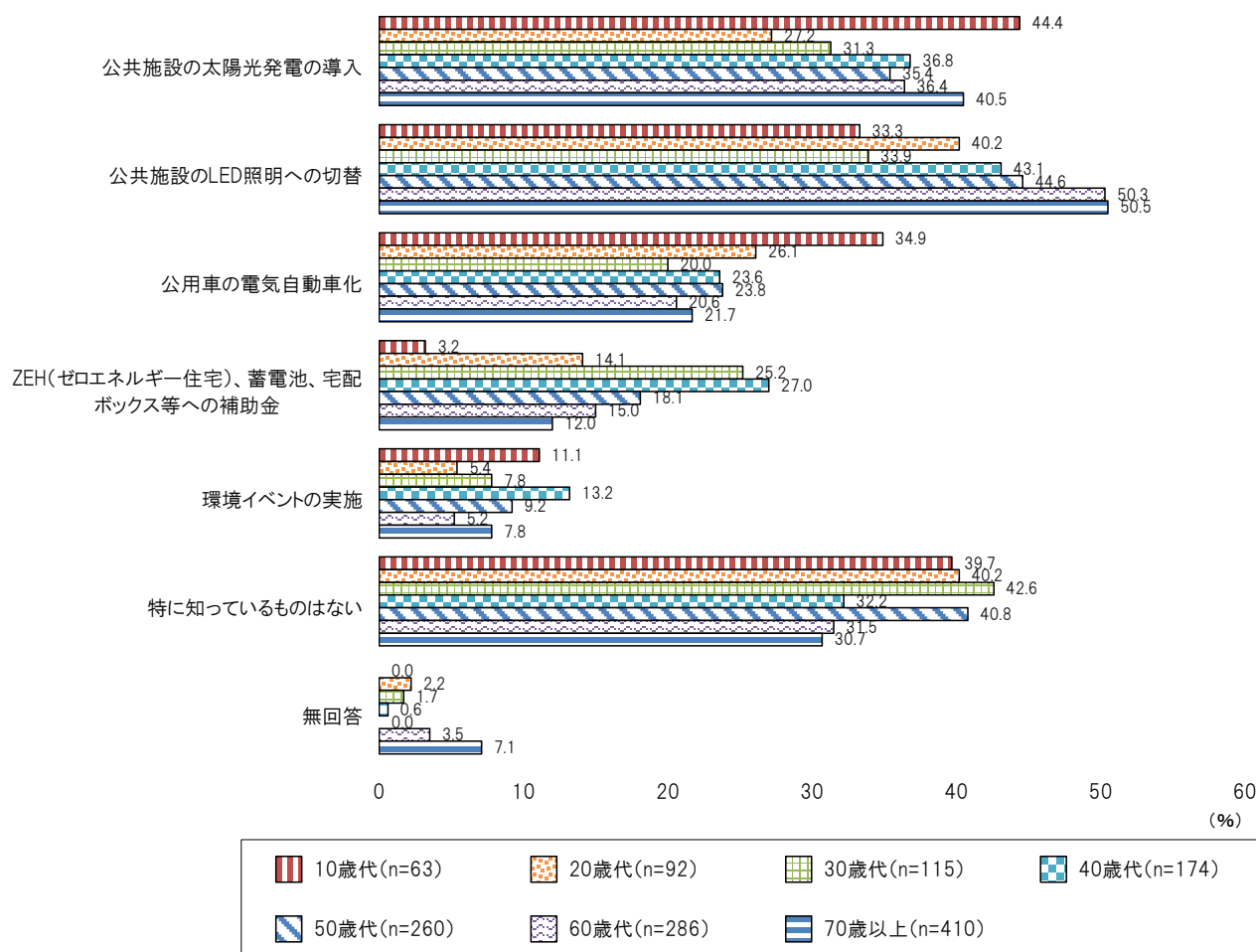
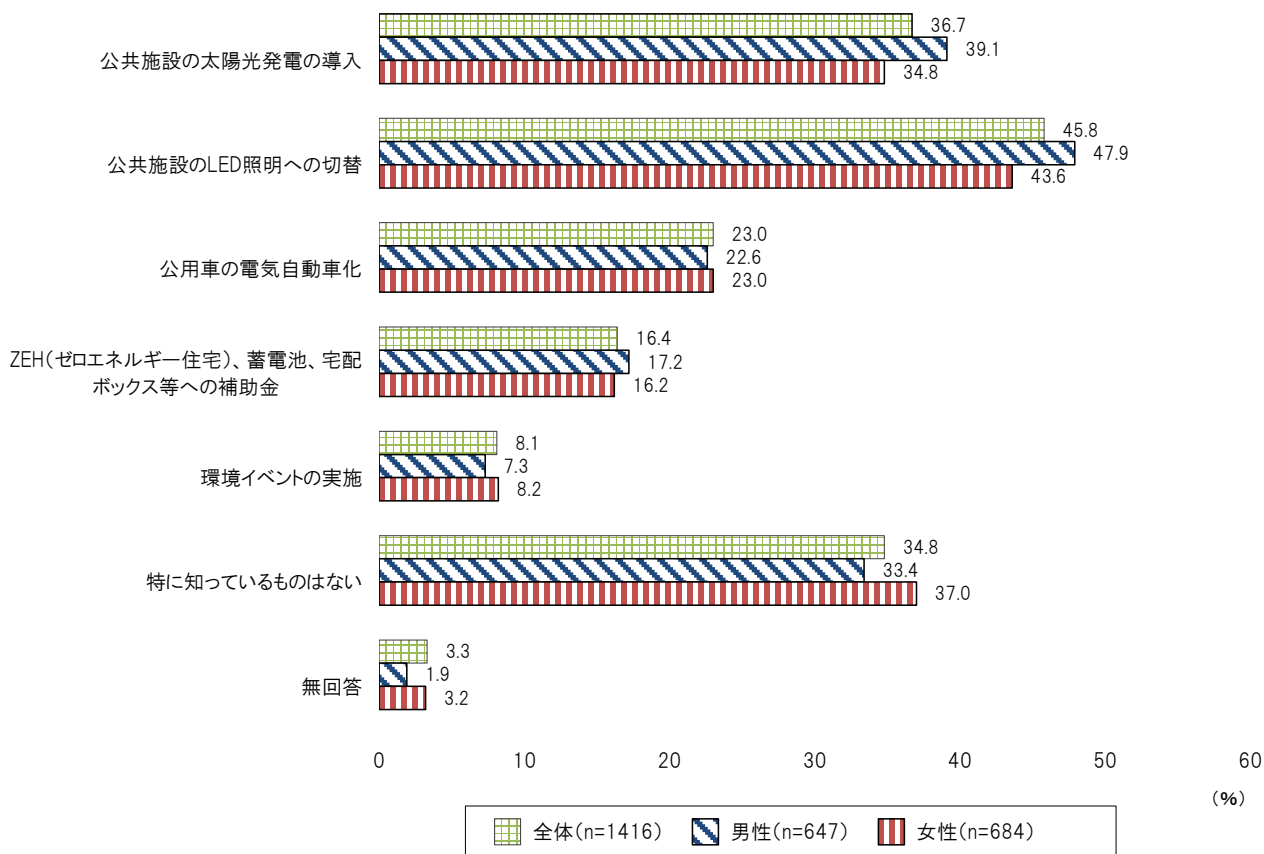
「公共施設の LED 照明への切替」が 45.8%で最も高く、ついで「公共施設の太陽光発電の導入」が 36.7%、「特に知っているものはない」が 34.8%となっている。

性別にみると、男性は1番目、2番目、3番目に高い項目は全体と同じであった。女性は2番目と3番目の順番が入れ替わっている。

年代別にみると、10 歳代の3番目「公用車の電気自動車」以外については、全体の上位3項目にあげられた項目と同じ項目となっている。40 歳代、60 歳代、70 歳以上は全体と同じ順番、項目であった。「特に知っているものはない」が 30 歳代では1番目、10 歳代、20 歳代、50 歳代では2番目となっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		公共施設の LED 照明への切替	45.8%	公共施設の太陽光発電の導入	36.7%	特に知っているものはない	34.8%
性別	男性	公共施設の LED 照明への切替	47.9%	公共施設の太陽光発電の導入	39.1%	特に知っているものはない	33.4%
	女性	公共施設の LED 照明への切替	43.6%	特に知っているものはない	37.0%	公共施設の太陽光発電の導入	34.8%
年代別	10 歳代	公共施設の太陽光発電の導入	44.4%	特に知っているものはない	39.7%	公用車の電気自動車化	34.9%
	20 歳代	公共施設の LED 照明への切替	40.2%	特に知っているものはない	40.2%	公共施設の太陽光発電の導入	27.2%
	30 歳代	特に知っているものはない	42.6%	公共施設の LED 照明への切替	33.9%	公共施設の太陽光発電の導入	31.3%
	40 歳代	公共施設の LED 照明への切替	43.1%	公共施設の太陽光発電の導入	36.8%	特に知っているものはない	32.2%
	50 歳代	公共施設の LED 照明への切替	44.6%	特に知っているものはない	40.8%	公共施設の太陽光発電の導入	35.4%
	60 歳代	公共施設の LED 照明への切替	50.3%	公共施設の太陽光発電の導入	36.4%	特に知っているものはない	31.5%
	70 歳以上	公共施設の LED 照明への切替	50.5%	公共施設の太陽光発電の導入	40.5%	特に知っているものはない	30.7%



問 27 地球温暖化の防止や脱炭素社会の実現のため、あなたがすでに取り組んでいるものはありますか。(〇はいくつでも)

「食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす」が 59.3%で最も高く、ついで「マイボトルやマイバッグを使う」が 58.6%、「ごみの分別の徹底」が 51.8%となっている。

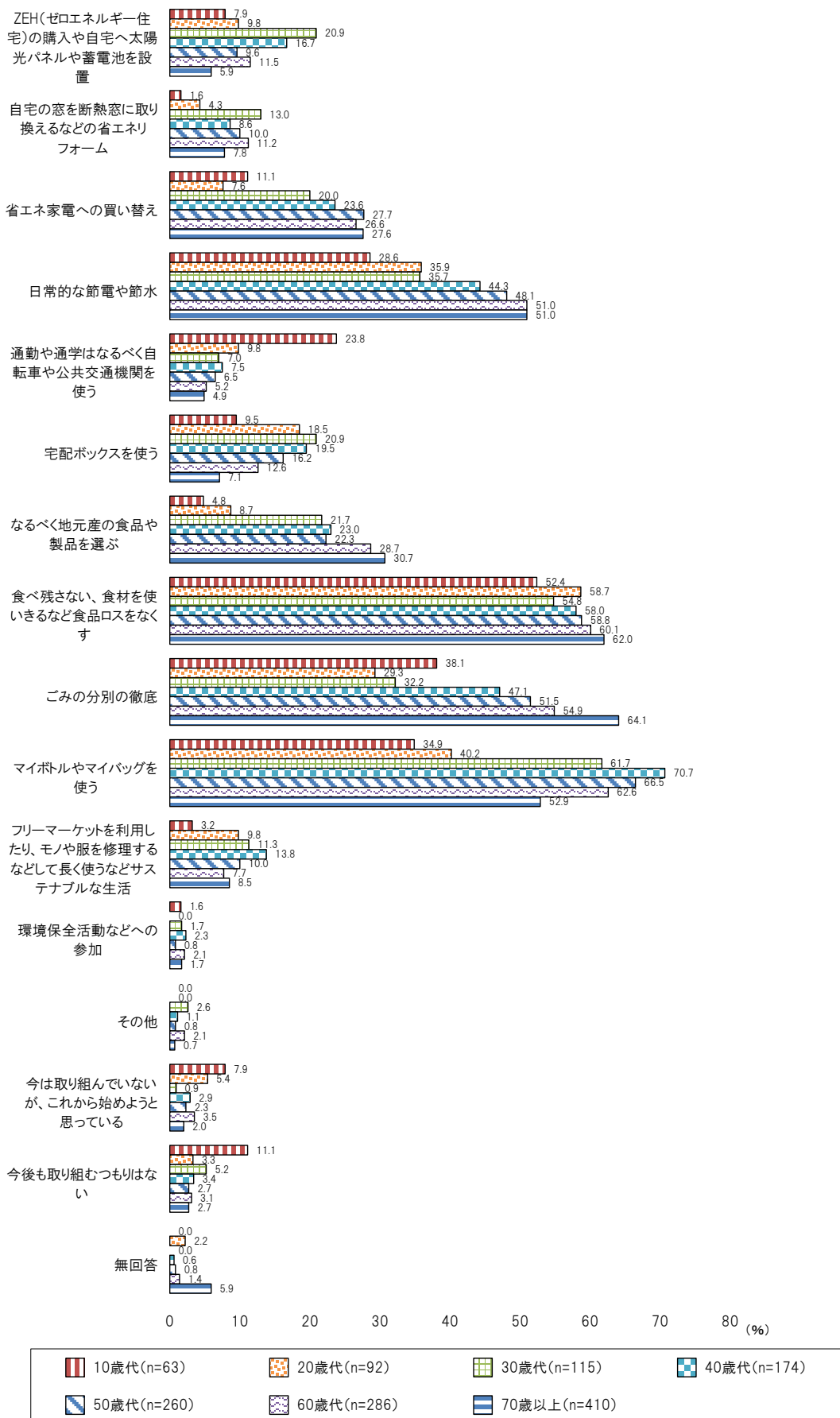
性別にみると、上位3位に入っている項目は全体と同じであるものの順番には違いがみられ、女性では1番目に「マイボトルやマイバッグを使う」が入っており、男性では2番目に「ごみの分別の徹底」が入っている。

年代別にみると、20 歳代、30 歳代の3番目にあげられた「日常的な節電や節水」以外については、全体であげられた項目が入ってきている。「食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす」は年代ごとの数値に大きな差はなく、一方、「マイボトルやマイバッグを使う」は 30 歳代から 60 歳代では6割台以上と割合は高いものの、10 歳代や 20 歳代では4割代以下と割合が低くなっている。

<上位3項目>

		1番目		2番目		3番目	
全体		食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	59.3%	マイボトルやマイバッグを使う	58.6%	ごみの分別の徹底	51.8%
性別	男性	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	54.9%	ごみの分別の徹底	49.1%	マイボトルやマイバッグを使う	45.6%
	女性	マイボトルやマイバッグを使う	71.9%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	64.2%	ごみの分別の徹底	53.7%
年代別	10 歳代	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	52.4%	ごみの分別の徹底	38.1%	マイボトルやマイバッグを使う	34.9%
	20 歳代	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	58.7%	マイボトルやマイバッグを使う	40.2%	日常的な節電や節水	35.9%
	30 歳代	マイボトルやマイバッグを使う	61.7%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	54.8%	日常的な節電や節水	35.7%
	40 歳代	マイボトルやマイバッグを使う	70.7%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	58.0%	ごみの分別の徹底	47.1%
	50 歳代	マイボトルやマイバッグを使う	66.5%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	58.8%	ごみの分別の徹底	51.5%
	60 歳代	マイボトルやマイバッグを使う	62.6%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	60.1%	ごみの分別の徹底	54.9%
	70 歳以上	ごみの分別の徹底	64.1%	食べ残さない、食材を使いきるなど食品ロスをなくす	62.0%	マイボトルやマイバッグを使う	52.9%





問 28 今後、さらに脱炭素化施策を促進していくため、松阪市が取り組むべきものとして、あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は 3 つまで)

「食品ロスの削減や食品残渣の有効活用」が 52.9%で最も高く、ついで「ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信」が 28.5%、「歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備」が 23.4%となっている。

性別にみると、1 番目、2 番目、3 番目に高い項目は男女とも全体と同じであった。

年代別にみると、1 番目はいずれの年代も「食品ロスの削減や食品残渣の有効活用」であった。10 歳代、20 歳代、50 歳代、60 歳代は項目、順番とも全体と同じであった。全体の上位 3 項目以外の項目としては、30 歳代の 3 番目に「中小企業の脱炭素化への取組に対する補助制度の充実」、40 歳代の 3 番目に「こどもや地域への脱炭素教育や啓発」が入っている。

<上位3項目>

		1 番目		2 番目		3 番目	
全体		食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	52.9%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	28.5%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	23.4%
性別	男性	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	49.9%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	29.1%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	24.0%
	女性	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	56.0%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	28.7%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	23.7%
年代別	10 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	52.4%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	30.2%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	25.4%
	20 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	41.3%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	37.0%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	23.9%
	30 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	48.7%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	31.3%	中小企業の脱炭素化への取組に対する補助制度の充実	22.6%
	40 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	50.6%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	27.6%	こどもや地域への脱炭素教育や啓発	24.1%
	50 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	51.2%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	32.3%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	23.8%
	60 歳代	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	57.7%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	30.8%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	24.5%
	70 歳以上	食品ロスの削減や食品残渣の有効活用	55.4%	歩行者中心のまちづくりや自転車が利用しやすい都市空間の整備	24.1%	ホームページや SNS を活用した脱炭素施策や補助金等の情報発信	22.2%

